

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成25年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
申請大学名	東京大学	申請大学長名	濱田純一
申請類型	オールラウンド型	プログラム責任者名	伊藤隆敏
整理番号	P01	プログラムコーディネーター名	城山英明
プログラム名	社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

現代社会においては、構造変化を伴う経済社会的ニーズ、複合的に作用するシステムリスク、世界的な環境のダイナミックな変容等を背景とした様々な社会的課題群が存在している。また、こうした課題には必ずしも1つの解があるわけではない。このため、潜在的なものも含め、そうした課題群を適切かつ早期に認識し、様々な専門的知見を組み合わせることで解決策の選択肢を構築し、選択肢の中から社会的合意形成を図りながら実際に選択を行い、更に、グローバルな視点を持って、それを迅速に展開することが求められている。

本プログラムでは、高い倫理観のもとに、社会が直面するグローバルレベルの課題を的確かつ早期に捉え、これに対して、多様な専門知識を統合し、社会的リソースを組織化して解決に導くことのできるとともに卓越したコミュニケーション能力を備えたリーダー人材（近い将来、「世界や国のドライバースシート」を託せる高度博士人材）を養成することを目的とする。このような課題解決には、文理横断的なイノベーションが不可欠である。公共政策は社会科学に閉じた課題ではなく、理系との幅広い連携の下に、先端的な科学技術の理解を踏まえて検討されるべき課題である。また、イノベーションを創出・実装することによって産業界から社会を牽引することもこのような人材の重要な役割である。

高度博士人材に必要な基本的な素養として、(a)課題を発見し解決する力、(b)幅広い教養と高い倫理観、(c)競争を勝ち抜く強い意思、(d)社会や市場ニーズを感じ取る知性と研ぎ澄まされた感性、(e)自ら学ぼうとする強い意志と旺盛な好奇心、(f)訓練された高いコミュニケーション能力が挙げられる。そのため、本プログラムでは、拠り所となる尖った専門性を一つ以上持つことに加え、(1)水平展開力基盤（分野横断的かつ論理的な文理双方の確固とした知識基盤）、(2)設計力（アジェンダセッティングやコンセプト設計能力）、(3)グローバル思考と公共精神に裏打ちされた行動力（先進国のみならず発展途上国をも対象とした大胆なグローバルな発想、課題解決実行をマネジメントできるプロジェクトマネジメント能力、英語をベースとする訓練されたコミュニケーション能力、多様な人材を率いる人間性と決断力を持ったリーダーシップ）の3要素を備えた人材を育成することとする。

このようなプログラムを通して、国家運営上重要な政策立案をリードできる人材、国益を代表して世界の舞台上で厳しい交渉を担う人材、国際機関や民間シンクタンクの幹部として世界的な議論をリードできる人材、多国籍の大型プロジェクトをリードし産業界を活性化することのできる企業人材や自ら社会変革を起こすことができるような社会的企業家を養成する。

本博士課程教育リーディングプログラムは、制度的要素と科学技術的要素の双方を含む広義の政策・戦略という横断的要素に焦点を当て、より踏み込んだ

文理融合を目指しており、理系の分かる文系、文系の分かる理系を育成する点において極めて高度な未来社会の課題を解決する高度博士人材を育成するものである。本プログラムは3つの波及効果を持つ。第1に、国際的なフィールド経験を基礎とした研究・教育は、東京大学が目標としている国際的にタフな人材を形作るという目的に、飛躍的に寄与することとなる。第2に、企業、省庁、国際機関等のステークホルダーと社会連携を図りながら行う教育は、大学院における社会リーダー養成の新たなモデルとなる。第3に、文科系と理科系の双方向連携が促進され、「縦割り」大学院の弊害を打破することにつながる。

## 2. プログラムの進捗状況

本プログラムは、おおむね計画どおりに進捗している。指導・支援体制については、当初計画のとおり、公共政策学、法学政治学、経済学、工学、医学、農学、情報学、情報理工学、新領域等の部局や政策ビジョン研究センター等の研究機構から、多数の分野から研究・指導能力の高い教員を結集し、分野横断型の教育を実施した。初年度は、36名の学生を選抜・育成した。そのために56名のプログラム担当教員を確保するとともに、多くの協力教員や特任教員を追加的に確保した。

企画・運営・連携体制については、公共政策学、法学政治学、経済学、工学、情報理工学、医学、農学、情報学、情報理工学、新領域等、多数の分野から教員が集まることとなったため、研究科等の代表教員等から成る全学的な「プログラム企画・運営委員会」を設け、1ヶ月に1度のペースで計7回開催し、認識の共有を図るとともに実効的な運営体制を構築した。また、3月には、プログラム担当者が合宿等の形式で集中討議する機会を設け、中長期の運営方針を議論した。外部評価システムとしての「産学官アフィリエート委員会」は2014年3月に第1回会合を開催し、「国際諮問委員会」については2014年秋に開催を予定している。

「俯瞰コースワーク」については、参加専攻における専門科目群と、各人が深い関心を持つ課題を中心に置きつつ、「先端科学技術コア」（計67科目）、「グローバル社会・政策コア」（計57科目）、「課題解決力コア」（計13科目）の3つのコアに提供科目を分類し、履修しやすいように各コアについて履修ガイドを設けた。また、課題解決力コアのコースワークの一環として、異分野横断作業を体得するため、チーム演習をすでに実施しつつあるが、プロジェクト・ベースト・ラーニング（Project Based Learning：PBL）手法を活用した科目やサマー・キャンプ等について、課題解決力コアの選択必修科目に位置づけ、履修を推奨することにした。

単位数およびその他の要件を含めた修了要件について確定した。そして、学外からの視点を積極的に取り入れる枠組みとして、外国人特任教員を雇用するとともに、産官学アフィリエート委員会と国際諮問委員会等を活用することにした。

さらに、2014年3月7、8日にはGSDM設立記念シンポジウムを開催し、本プログラムが目的として掲げる文理横断的かつ実践的な概念としての社会構想マネジメントについて明らかにするとともに、医療・医療機器、エネルギーといった具体的適用例について議論した。この他、本プログラム主催のイベントとして、各分野における国内外のパイオニアを講演者として招聘した「GSDMプラットフォームセミナー」を2013年度に計9回実施した。